



## 【交通アクセス】

1. JR・近鉄「京都」駅から
  - 市バス 206 系統・208 系統または 100 系統で約 10 分、  
「東山七条」で下車し、東へ徒歩約 5 分。（通称「女坂」を登ります。）
  - 京都駅八条口から  
プリンセスラインバスで約 10 分、「京都女子大学前」で下車。
2. 阪急「河原町」駅から
  - 6 番出口から、市バス 207 系統で約 15 分、「東山七条」で下車し、東へ徒歩約 5 分。
  - 2 番出口から、河原町通を南へ約 80m、プリンセスラインバスで約 15 分、  
「京都女子大学前」で下車。
3. 京阪「七条」駅から  
東へ徒歩約 15 分。

京都駅 バス乗り場



四条河原町 バス乗り場



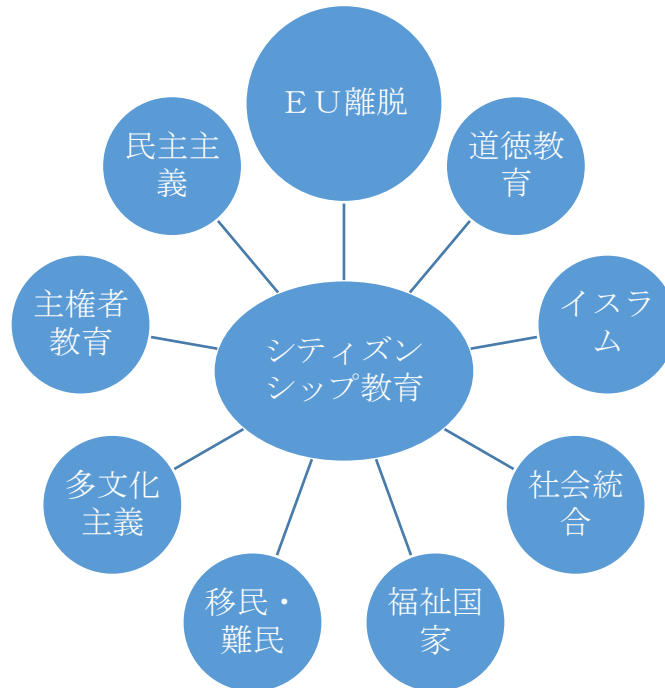
**禁煙** キャンパス内の建物内は全面禁煙です。また、敷地内は指定された場所以外での喫煙は禁止となっております。ご協力をお願いいたします。

**【ご宿泊】** 各自でご手配をお願いいたします。

**【昼食】** 夏季休暇中のために学食は開いていません。会場の周辺には、コンビニエンス・ストアが一軒、食堂が数件あります。

《大会参加費》 1000 円（一般会員）、500 円（学生）

《懇親会費》 5000 円（参加人数により変更することがあります）



### 京都女子大学マップ



個人研究発表を募集しています。  
 締め切り： 2016年7月17日(日)  
 応募先 日英教育学会第25回大会事務局  
[tanigawa@kyoto-wu.ac.jp](mailto:tanigawa@kyoto-wu.ac.jp) (谷川至孝)

【 公 開 シ ン ポ ジ ウ ム 】 8月27日(土) 13時～17時半  
(Y校舎202教室)

テーマ 【シティズンシップ教育の枠組みと実践】

《企画趣旨》

デヴィッド・キャメロン首相が、英国における多文化主義政策は失敗したという公的な見解を表明したのは、シティズンシップ教育の導入から十余年を経た2011年のことである。シティズンシップ教育の導入は、現代社会における民主主義の危機に対応することを目的としていた。移民・難民の増加、若者の政治への無関心、規範意識の低下、などの問題が、こうした危機の構成要素であるとみなされてきた。それからさらに約5年が経過した現在、イスラム圏の政治情勢はますます不安定化し、難民・移民をめぐるヨーロッパ諸国の葛藤は、いっそう深まっている。英国社会もまた、こうした人々を多く受け入れている国の一つとして、その様々な影響から免れてはおらず、ついにはEU離脱の是非を問う国民投票を行うまでに至っている。このニューズレターが発行される時には、英国のEU離脱の是非を問う国民投票の結果が出ていることだろう。これらのことは、15年にわたる英国のシティズンシップ教育が効果のないものであったということの意味するものであろうか。

多元化する現代の国民国家は、常に社会分裂の契機を抱えている。社会の中の文化、宗教、世代、嗜好などの多様化が、そのまま深刻な社会分裂に結びつきかねないのである。国民国家の体制では通用した統合原理が、もはや通用しなくなっているのだ。シティズンシップ教育は、そのような時代の新たな統合原理を模索するものとして、再びその存在意義、方法を真の意味で問われている。15年間、英国では果敢にシティズンシップ教育の取り組みと見直しが続けられてきた。

本シンポジウムは、そうした英国のシティズンシップ教育の取り組みを概括したうえで、マシューズ氏と日本側パネリストの蓮見次郎氏、片山勝茂会員との議論、また、当日の参加者との質疑を通じて、その可能性と課題を明らかにし、最終的に今後の日本の学校教育における取組への示唆を得ることを目的とする。

(コーディネーター、清田夏代)

ゲスト・スピーカー： ケヴィン・I・マシューズ氏 Kevin I Matthews

基調講演 13時～14時15分

演題： 「英国のシティズンシップ教育：導入の目的と今日の実践・課題

－英国のシティズンシップ・人権・ジェノサイド教育のより幅広い活用の事例－

Citizenship Education in the UK and examples of the wider application of citizenship,  
human rights and genocide education

シンポジウム 14時30分～17時30分

日本側パネリスト 蓮見次郎氏 (九州大学法学部)

片山勝茂会員 (東京大学教育学研究科・教育学部)

通訳 中島千恵会員（京都文教大学）・小口功会員（近畿大学）  
マシューズ氏 経歴

1984年、西ドイツのミュンスターで英国人の軍人一家に生まれる。サザンプトンで教育を受け、ボーンマス大学考古学部で化学を専攻した。大学院では地球物理学的遺跡調査、法廷考古学、ヨーロッパ的文脈における初期中世イギリスについて研究を行う。大学在学時は、英国全土及びマン島に及ぶ大規模な研究プロジェクトのコーディネーターを経験している。チャンネル4の番組であるタイム・チームの調査にも参加した。

大学を優秀な成績で卒業した後、サザンプトン大学教育学大学院に進み、霊性と教育の関係、また、全人教育及び子どもの発達を促すための屋外活動の活用などを専攻した。修士号を取得した後、ドチェスター州ドーセットに所在するトーマス・ハーディー校で、神学、哲学、倫理学の教師となる。同校は、近年、英国で最大かつ最も優れた学校の一つとみなされている。氏は同校で、シティズンシップ、人権及びジェノサイド教育の主任を務め、UCLのホロコースト教育センターや英国ホロコースト祈念日トラスト（UK's Holocaust Memorial Day Trust）、イーギストラスト（Aegis trust）などと緊密に連携協力を行っている。

氏は、英国予備軍人のキャプテンでもあり、また、英国王立芸術協会会員でもある。登山やハイキング、写真、読書などを趣味とする。妻のジョアンナとの間に、マデレーン(9歳)とオリバー(6歳)の二児がいる。ノースドーセットのジリングム在住。



【 自由研究発表 】 8月27日（日） 9時～11時  
Y校舎202教室

発表者が確定次第メールでご連絡します。

【 総会 】 8月27日（日） 11時10分～12時10分  
Y校舎202教室

## 『英国の教育』編集状況報告

『英国の教育』編集作業につきまして、途中経過を報告いたします。3月末には大多数の執筆者の皆様から原稿をご提出いただきました。去る5月8日（日）に編集委員会を開催し、用語の統一や内容、表現等について編集委員の間で議論いたしました。その結果を各執筆者にお返しし、6月18日（土）までに再度入稿いただく予定となっております（このNLが届くころはすでに締め切りとなっております、多くの執筆者の方々から原稿をいただけていると思います）。

7月上旬には出版社と打ち合わせをし、8月末の大会頃には執筆者の手に初稿が届くように計画しております。著者校正もできるだけ3回はとりたいと考えています。なんとか12月末までの出版に間に合わせたいと思いますので、執筆者の先生方、あとしばらくのご協力をよろしくお願いいたします。

（『英国の教育』編集委員会）

## 紀要編集委員会より

『日英教育フォーラム』第20号編集状況報告

今号では、昨年の大会報告「教育破綻からの再生—失敗自治体の学校教育再生プロジェクト」を中心に、自由投稿論文、英国の教育動向、書評等を掲載予定です。記念すべき第20号ということで、本来は大々的な特集を組んだりしたかったのですが、出版事業等も重なり、少々マンパワーが足りなくなってしまう、昨年の大会を運営していただいた広瀬裕子会員に多大なご尽力をいただきました。その他、ご協力いただいた会員の皆様にもあらためて御礼申し上げます。

**毎回のお願いで恐縮ですが、学会活動の王道は紀要にあります。ぜひ会員の皆様には積極的な投稿をお願いします。**

今号の自由投稿論文受付の際、送付先に関して若干の混乱が生じました。次回からはこのようなことのないよう真摯に反省するとともに、J-STAGE への対応も可能となるよう、電子化を含めた、より明確ですっきりとした投稿規定に修正したいと考えております。なお、投稿規定の修正案は今夏の大会時の総会で提案し、ご承認いただき次第、学会ウェブサイト等で周知いたします。

（沖 清豪）

## 紀要電子化事業 進捗状況について

既報のとおり、本学会紀要はすでに J-STAGE に登載が決定しております。しかし、その後なかなか搭載の連絡がもらえず、担当者としては非常にやきもきしておりました。しかし、先日 J-STAGE 運営事務局から連絡を受け取りました。どうやら今年度の大会時に刊行される第 20 号から登載されそうです。

去る 6 月 6 日 (月)、都内で開催された登載にかかわる説明会に青木研作会員と宮島とで参加してまいりました。そこで主に示されたのは、登載時のアップロードの仕方やその後のメンテナンス等、管理についての説明が主でした。J-STAGE 運営事務局も、管理者の作業をできるだけ簡素にしてくれる方法を模索しており、以前の初期バージョンよりもより楽に作業ができそうです。

登載作業に必要なことはまず書誌情報の入力です。これは論文タイトル、著者名、ページ数などで、「コピペ」でほとんどが事足りるのですが、「引用・参考文献」だけは、ちょっと大変です。過去の投稿論文をみても、注だけで済まされてしまっているものが多く、かなり面倒な作業になりそうです。そこで今後は、論稿の最後に引用・参考文献リストをつけていただくよう、論文投稿規定を修正させていただきます。詳細は 8 月末の総会にて、紀要編集委員会から提案いたします。(可能であれば第 20 号からスタートいたします。)

すでに本学会 HP サイトでも既刊の紀要はすべて公開しておりますが、J-STAGE に本学会紀要が登載されれば、その研究成果は今まで以上に多くの方々目に触れることになることなのでしょう。そうなればおのずと本学会への注目度も高まります。会員の皆様方におかれましては、ご自身の研究成果をより広く世に問うとともに、本学会のますますの発展のために、今後どうぞ奮って紀要へのご投稿、ご寄稿をお願いできればと思います。

(宮島 健次)

## 運営委員会報告

2016 年 3 月 28 日、専修大学サテライトキャンパスにて 2015 年度第三回運営委員会を行いました。概要は次のとおりです。それぞれの詳細については、本ニューズレターの別項をご参照ください。

- (1) 学会紀要について
- (2) 2016 年度大会について
- (3) 『英国の教育』出版進捗状況について
- (4) J-stage への登載について
- (5) その他
  - ・教育関連学会連絡協議会総会について
  - ・会員としての認定時期について
  - ・名誉会員の顕彰について

(谷川 至孝)

### 学会会費をお支払ください

2016 年度会費をお支払ください。

また、過年度会費未納の方につきましては、併せてお支払いをお願いします。

三カ年会費未納の方は、除籍されます。

くれぐれもご注意ください。

### 紀要の原稿を募集しています

学会紀要『日英教育研究フォーラム』21号（2017年9月発行予定）の自由投稿論文を募集しています。締め切りは2017年4月末日、提出先は以下のとおりです。

「日英教育研究フォーラム紀要編集委員会」 [kiyou@juef.sakura.ne.jp](mailto:kiyou@juef.sakura.ne.jp)

〒162-8644

東京都新宿区戸山1-24-1 早稲田大学文学学術院 沖清豪研究室気付

執筆要領につきましては、紀要19号の『日英教育研究フォーラム』論文投稿規定をご参照ください。

また、「書評」でとりあげる図書も募集しています。自薦、他薦を問いません。情報をお寄せください。

### 日英教育学会 (Japan-UK Education Forum)

代表 上田 学

◆事務局 〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町 35

京都女子大学発達教育学部・谷川至孝研究室

TEL 075-531-7283

◆問い合わせ先 青木研作 [k-aoki@tsu.ac.jp](mailto:k-aoki@tsu.ac.jp) (入退会等)

谷川至孝 [tanigawa@kyoto-wu.ac.jp](mailto:tanigawa@kyoto-wu.ac.jp) (会計等)

上田 学 [manabu-ueda@cs.kinran.ac.jp](mailto:manabu-ueda@cs.kinran.ac.jp)

◆郵便振替 00170 2 780381 日英教育学会

◆三井住友銀行 武蔵関支店 総合 6651815

日英教育研究フォーラム事務局長 谷川至孝